

2021 年度 高等学院同窓会学術研究奨励金
研究成果報告書概要 (WEB 公開用)高等学院長
高等学院同窓会理事長 殿

研究代表者氏名 [吉池 大門]

学年・組・番号 [3 年 A 組 30 番]

研究課題： 岡山県矢掛町におけるアルベルゴ・ディフーズ運用の実態と課題

(英文) The Actual Situation and Challenges of Albergo Di Fuzzo Operation in Yakage, Okayama Prefecture

研究概要：

(研究課題を選んだ動機、達成するための計画・目的・方法等について 200~400 字で記入してください)

本研究のテーマであるアルベルゴ・ディフーズ(以下 AD)という名前を観光に関する書籍にて初めて目にし、その内容に興味を湧いたということが研究動機である。そもそも AD とは、イタリア語で「分散したホテル」を意味し、イタリアにて 1980 年代初頭より取り組まれている分散型宿泊施設の仕組みを示した言葉である。地方における観光のあり方に関して調べる中でこの概念と出会い、興味を持ったことから、国内での早期運用事例となる岡山県小田郡矢掛町における AD の実態と課題を明らかにすることを目指した。AD はその運用形態の特徴から、併せて過疎地域においての地域活性化や空き家の活用が期待されており、近年各地で試みられている、地方創生を手助けする取り組みとして注目されている。今回、AD の仕組みや発展プロセス、現地での取材内容をまとめることでそのさらなる発展可能性を模索する。

研究成果：

(研究の結果概要、結果に対するフィードバックや感想等について 200~400 字で記入してください)

実際に矢掛町にて現地調査を行なった結果、町のコミュニティを維持し、対外的に町の良さを発信することができるという点で AD は大きく貢献していることが確認できた。同時に、周辺交通機関が限られているためにアクセスが比較的困難である点、長期的な電子マネーの定着化が不透明である点、夜間における観光客向けコンテンツが昼間に比べて大きく損失してしまっている点といった、現地調査を通してしか分からない現状を知ることができ、まだまだ改善できる側面もあることに気付かされた。これまでの研究を踏まえて、これらの問題が解決、改善されれば今後この町の利便性が高まり、AD のさらなる発展が見込まれるように感じた。

研究者：(以下の、代表者・分担者は学年・組・氏名を明記する)

研究代表者 吉池大門

研究分担者 秋和亮佑

担当教諭 柿沼亮介

(受給額：40000 円)

※研究課題、研究概要、研究成果、研究代表者名が WEB ページ上で公開されることに同意します
(次のページに続きます)

研究成果写真：

(研究過程がわかる写真や、研究結果がわかる写真などを数点貼り付けてください)

